EFFICIENT LOGISTICS

インフラネットワークが支える物流

首都圏における物流施設は、臨海部や高速道路沿線に多く集積し、圏央道沿いでは新たな物流施設の立地が進んでいます。

陸・海・空のあらゆる輸送モードをいかした物流拠点

Ⓐヤマトグループ　羽田クロノゲート

羽田空港と首都高羽田ICに隣接したヤマトグループの国内最大級の総合物流ターミナル「羽田クロノゲート」。東京港や横浜港への交通利便性に優れ、鉄道貨物輸送も利用しやすい立地です。

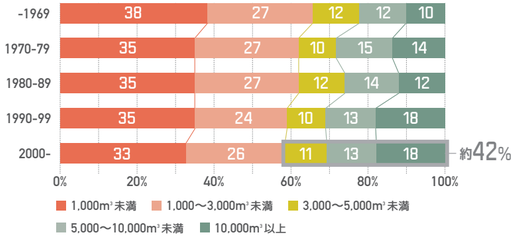
首都圏「即日配達」を可能とする物流拠点

Ⓑ大和ハウス工業 Dプロジェクト流山

常磐道流山ICの近接地に国内最大規模の物流施設（2018年度開業予定）。インターネット通販の拡大による物流需要へ対応し、圏央道や外環道の活用で首都圏各地への効率的な配送を目指しています。

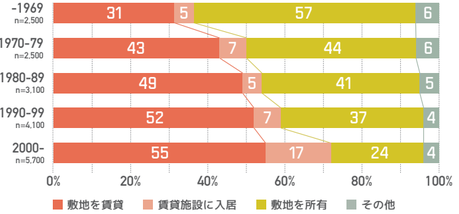
出典：＊東京都市圏交通計画協議会「東京都市圏の望ましい物流の実現に向けて」（2015年12月）

物流施設の敷地面積規模の構成比（開設年代別）*



敷地面積が3,000m²以上の物流施設の立地割合が、2000年以降の施設で約42%となっており、施設の大規模化が進んでいます。

土地・施設の所有形態別の物流施設の割合（開設年代別）*



賃貸施設を利用する物流業者の増加に応じ、近年では不動産事業者などによる賃貸型物流施設の計画も増えています。